



常呂川森林ふれあい推進センター

森林環境教育 周りの助けによって

常呂川森林ふれあい推進センター（以下センター）では、現在2名体制で業務を行っています。子供たちに、オホーツクの豊かな自然環境や森林資源の大切さを少しでも感じてもらい、森林とふれあうきっかけづくりにつなげたいとの思いから、多くの方々のご支援をいただきながら、新たに北見市内の2つの小学校で森林環境教育のお手伝いを行いました。

北見市教育委員会が取組を広げてくれました

これまでセンターでは、北見市内の小学校における森林環境教育の支援として、常呂小学校の「ワッカネイチャースクール」に網走南部森林管理署と取り組んできました。また、独自活動として、森林ボランティア「オホーツクの会」と共催し、「オホーツクの森・子ども探検隊」を実施してきました。近年は網走中部森林管理署やオホーツク総合振興局にもご協力いただいています。

こうした森林環境教育の取組をさらに広げたいとの思いから、北見市教育委員会に「北見市内の小学校で森林環境教育をお手伝いします。」という内容のチラシの配布をお願いしたところ、趣旨をご理解いただき、教育委員会から市内各小学校へ周知していただけることになりました。その後、相内小学校及び大正小学校からご連絡をいただき、令和7年11月に各小学校を訪問して森林環境教育を実施しました。

小学校では途切れぬ集中力と作品センスに脱帽

相内小学校では、1・2年生14名を対象に「見て、ふれて、思いのままに森の子!?松ぼっくりアート」と名を打



◆相内小学校での一コマ

ち、様々な種類の松ぼっくりなどを使い、グルーガンで自由に組み合わせながら作品を作り上げました。

大正小学校では、1・2年生13名を対象に「見てふれて森の子!?松ぼっくりでツリーアート」を実施しました。大きな松ぼっくりにアカエゾマツの葉をボンドでつけ、その後思い思いの装飾を施した松ぼっくりツリーを制作しました。



◆大正小学校での一コマ

センター職員2名だけでは十分な対応が難しいため、各校で「オホーツクの会」の皆様2名ずつにお手伝いいただきました。子供たちが安全に活動でき、のびのびと自由な発想で作品作りに取り組めるよう環境づくりに努めました。

両校とも、授業は中休み5分を挟んだ3・4時間目に実施しました。子どもたちは作品作りに没頭し、休み時間になっても手を止めようとしないうほどの集中ぶりでした。こちらから「少し休もうか」と声をかける場面もあったほどで、ものづくりに向き合う真剣な姿がとても印象的でした。

また、完成した作品はどれも個性豊かで、見本を上回るような創造性あふれるようなものばかりでした。

今後も多くの皆様のお力をお借りしながら、オホーツクの豊かな森林や自然を身近に感じてもらえる取組や、森林に親しむきっかけづくりを進めていきたいと考えています。